

# いじめ・不登校対応

## 令和5年度 臼杵市の重点

### ① 「いじめゼロ」から「いじめ見逃しゼロ」

- ・ チームで組織的に対応 児童生徒を守り通し、スピーディーに、何より優先する
- ・ 「臼杵市いじめ防止基本方針」を職員会議等で扱い、未然防止・早期発見・早期解決へ共通理解をする
- ・ いじめの定義を子どもや保護者、地域へ周知、ポスター掲示等

### ② 「チーム学校」の推進

- ・ チームで組織的に対応する  
チーム臼杵とは…管理職のリーダーシップのもと、教職員・専門スタッフが各々の専門性を活かして連携・分担しチームとして課題解決へ

### ③ 地域児童生徒支援コーディネーターの活用

- ・ 不登校支援だけでなく、「いじめ・不登校・子どもの貧困等」の課題に対して、各校の教育相談コーディネーターやSC、SSWと連携して取り組む  
SC：スクールカウンセラー      SSW：スクールソーシャルワーカー

いじめ対策の基本は

いじめゼロ



いじめ見逃しゼロ



小中学生への9年間のいじめ追跡調査

「仲間はずれ、無視、陰口」

された経験がある・・・9割

した経験がある・・・9割

国立教育政策研究所生徒指導・進路指導センター いじめ追跡調査2013-2015



いじめはどの学校でもどの子どもにも起こり得る

# 教育相談コーディネーターの役割



平成30年度から全ての学校において、SCやSSW等の連絡調整の窓口となる「教育相談コーディネーター」を校務分掌に明確に位置付けることとなった。

## ○教育相談コーディネーターとは・・・

「不登校、いじめ等の未然防止、早期発見のための活動や事案が発生した際は、学校が**組織として対応**する必要がある。そのため、学校全体の児童生徒の状況及び支援の状況を**一元的に把握し**、学校内及び関係機関等との**連絡調整**、ケース会議の開催等児童生徒の抱える問題の解決に向けて**調整役**として活動し、**校内の教育相談体制を構築する中心的な役割を担う教職員**。【「児童生徒の教育相談の充実について」（文部科学省平成29年1月教育相談等に関する調査研究協力者会議より）】

## ○教育相談コーディネーターの具体的な職務内容

	項 目	内 容
1	SC・SSWの周知と相談受付	児童生徒やその保護者に、SC・SSWの周知を図り、相談の受付をする。相談の申し込みの有無にかかわらず、実情に応じて、コーディネーターが積極的にアプローチする。
2	SC・SSW・関係機関との 連絡調整	児童生徒の抱える問題に応じて、SC及びSSWや関係機関も参画し、学校としての対応方針をまとめ、効果的な支援が行えるように調整する。SC・SSWの双方の支援が必要な場合には、学校の窓口として、両者間の調整を行う。
3	校内対策会議、 ケース会議の開催	校内対策会議の定期的な開催とともに、児童生徒の抱える問題に応じて、学年でのケース会議、校内全体でのケース会議、関係機関を含めたケース会議などの企画・運営を行う。
4	校内研修の実施	SC・SSWの役割や、学校としての活用方針を研修会の場などを利用して、全教職員で共通理解できるようにする。

## 不登校の初期対応「あったかハート1・2・3」の取組

大分県教育委員会では、不登校防止の初期対応の原則として「あったかハート0・1・2・3」の取組を推進し、県内全ての小・中・高等学校及び特別支援学校において、この「あったかハート0・1・2・3」の取組を徹底するよう指導しています。

### 「あったかハート0・1・2・3（ゼロ・ワン・ツー・スリー）」

あったかハート0とは・・・不登校の未然防止のため、学級に心の居場所づくりや仲間づくりなど学級経営を大切にする取組

欠席1日目=電話連絡（励まし電話、安心電話、受診確認）

欠席2日目=電話か家庭訪問（安心電話、症状の具体把握）

欠席3日目=家庭訪問（組織対応、体調確認、再登校不安解消）

欠席3日以上=チーム支援開始

（担任、養護教諭、関係職員、SC、SSW、関係機関連携）



（『子どもの力と意欲の向上「芯の通った学校組織」活用推進プラン』より

平成26年11月 大分県教育委員会）

# チームうすき（チーム学校）

- 地域児童生徒支援コーディネーター 拠点校 西中学校 神野 礼子教諭
- ・白杵市の小・中学校への訪問による指導・助言 各校月1回のチームカンファレンスの実施
  - ・各学校の「いじめ・不登校対策プラン」の作成・検証・改善・徹底の推進
  - ・各学校のいじめ・不登校対策委員会の活性化の推進
  - ・生徒指導主任会、教育相談コーディネーター研修等へのいじめ・不登校の情報発信
  - ・各校の研修「QU研修」「心のケア専門研修」「人間関係づくりプログラム研修」等への対応
  - ・登校支援員と連携した別室登校生徒への支援

## ○QU検査の実施と活用

- ・QU検査…学級集団の状態と個人の学級適応間の状況を分析する調査  
今年度小学校6年生と中学校1年生に、年2回実施して、分析、対応・対策

## ○学校図書館専門員の活用

- ・不登校、不登校傾向の子どもたちのために、図書館専門員が選書し、貸し出しを行う。

## ○幼小中一体教育の充実 子どものつながりづくり（未然防止）

- ・幼小中接続連携、小中乗り入れ授業、小小・小中連携行事、小小合同授業、小6体験入学、教育支援シート「ほっとりぼん」の活用

# 子どもたちの悩みや困りにチームで取り組みます

校内研修で人間関係づくりプログラムについて説明してくれます。

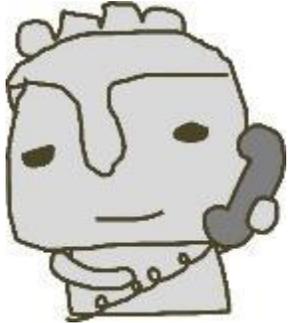
## 地域児童生徒支援コーディネーター・・・

- ・ 自校における「教育相談コーディネーター」の役割を担います
- ・ 市町村のいじめ・不登校対策アクションプランに基づき、市町村教育委員会が定めるいじめ・不登校・貧困等の諸問題の解決に向けた取組を行います。
- ・ 域内の小・中学校における教育相談についての校内対策組織の構築や校内会議の運営に関して、「教育相談コーディネーター」の支援・助言を行います。

各校の教育相談コーディネーター

地域児童生徒支援コーディネーター

チームうすき



つなぎあう

西中学校  
神野礼子先生

つなぎあう

- スクールカウンセラー
- スクールソーシャルワーカー
- スクールロイヤー
- 特別支援教育相談員
- 訪問型通級指導員
- ちあぽと：子ども子育て課
- 教育支援センターきずな

**合言葉「困ったら地域児童生徒支援コーディネーターに相談を！」**

# 教育支援センター「きずな」



白杵市教育委員会では、「いじめ」や「不登校」でお悩みの保護者の相談室として、市内小・中学生を対象に教育支援センター「きずな」を開設しています。「いじめ」や「不登校」はいつでも、だれでも起こりうることです。子どもたちの「いじめ」や「不登校」に関する悩みや子育てで気になること、困ったことなどがありましたら、お気軽に相談してください。

また、「きずな」では、いろいろな活動を通して、学校に行けない子どもたちが自信を回復し、社会的自立（学校復帰も含む）ができるようお手伝いをしています。

## 「きずな」の活動内容 月～金

9:00～10:00	引き継ぎ業務・相談業務・学校連携
10:00～12:00	自主活動・学習活動・共同活動等
12:00～13:00	昼食・昼休み
13:00～15:00	清掃タイム・自主活動・学習活動・共同活動等
15:00～16:00	学校連携・相談業務・スタッフ会議等

## 「きずな」に連絡したい時は

〒875-0041  
白杵市大字白杵72-255  
TEL 0972-62-8341  
FAX 0972-62-8361

## <教育委員会学校教育課>

白杵市大字白杵72-1  
TEL 0972-63-1111(内線3111)  
FAX 0972-63-1374

## スタッフ

- ◆ 合澤徳人
- ◆ 高橋悦子
- ◆ 亀井清子
- ◆ 安部玲子
- ◆ 永松達也

※野津分室を基本毎週火・木曜日、13:00～15:00に開室します。場所は、野津中央公民館です。

## SC・SSWの活用

### スクールカウンセラー(SC)

- ・問題を抱える児童生徒やその保護者の心理的内面への働きかけ
- ・心理療法に基づく助言・治療による個人の変容をめざす
- ・学校内外におけるケース会議における指導・助言

【北ブロック】 加藤香苗SC

【南ブロック】 多田江里SC

【西ブロック】 鎌苅享子SC

【東ブロック】 古屋泰子SC

【野津ブロック】 安東優子SC

### スクールソーシャルワーカー(SSW)

- ・問題を抱える児童生徒やその保護者が置かれた環境への働きかけ
- ・関係機関等とのネットワークの構築、連携・調整
- ・学校内外におけるケース会議の構築・支援

陶山武尊SSW

吉本寛子SSW

川野壮彦SSW

### スクールカウンセラー

- ・いわゆるメンタル面のケア・癒し、個人の特性理解 等  
➡子ども自身をケアすれば前進しそうな状況  
(メンタルヘルス、個人の内面、心理面の葛藤、発達検査などによる自己理解など)

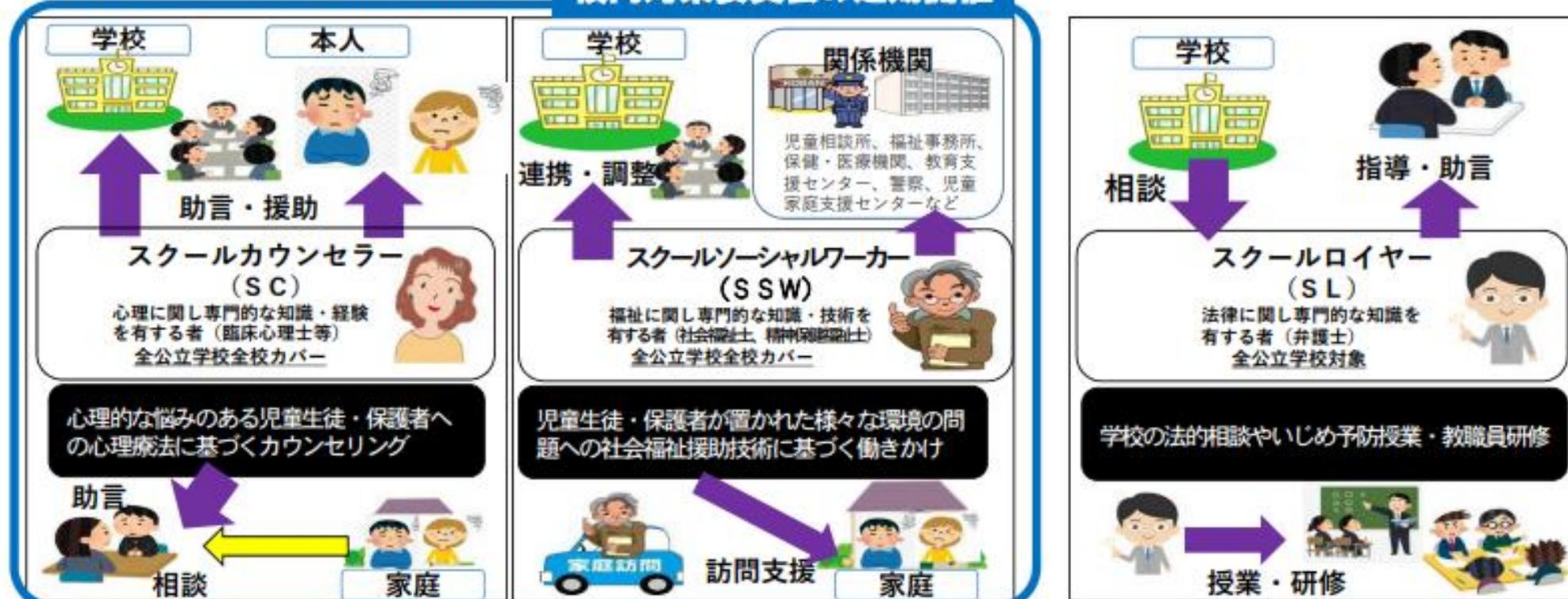
### スクールソーシャルワーカー

- ・個人と周りの環境(家庭・学校・地域や医療・福祉等)との調整、仲介、代弁、助言、連携などを具体化  
➡子どもだけでは改善できない社会的・家庭的状況  
(例: 貧困、傷病、障がい、虐待、DV、社会不適応など)

## ②早期解決支援の取組

### 1 専門スタッフの効果的活用

#### 校内対策委員会の定期開催



#### ■ SC 配置強化

週 1 回 4 時間勤務

⇒ R4 ~ : 週 1 回 × 7 時間勤務(市町村)

#### ■ SSW 配置強化

週 2 回 × 6 時間勤務

⇒ R4 ~ : 週 2 回 × 7 時間勤務

### 2 登校支援員の配置 (14校) **継続** 西中学校に配置

登校するものの教室に入れず、相談室など別室で過ごす児童生徒のための支援員配置

#### ■ 教員と連携した学習や学校生活等のサポート

- ・ 別室での学習や生活の状況を教員と日々情報共有
- ・ 居場所づくり、学習環境の整備 等

## 学校（教職員）とスクールカウンセラーとスクールソーシャルワーカーとの違い

	学校（教職員）	スクールカウンセラー	スクール ソーシャルワーカー
専門とするもの	教育の専門家	こころの専門家	ネットワークの専門家
基盤とするもの	教育学	心理学	社会福祉学
焦点を当てるもの	個人・集団の学力・体力 仲間づくりの指導	個人の内面の葛藤	個人の環境の不適合
役割	指導者	治療者	パートナー
機能	指導・助言	助言・治療	助言・関係調整・仲介・代弁
めざすもの	個人・集団の変容	個人の変容	家族全体の生活の質の向上
技法	学習指導 構成的グループエンカウンター等	心理療法	ソーシャルワーク技法
資格	教員免許	臨床心理士	社会福祉士・保健福祉士

○短時間で継続的に行う「人間関係づくりプログラム」の普及に向けて

## 「人間関係づくりプログラム」の普及(いじめ・不登校対策)

児童生徒同士の良好な人間関係を構築し、いじめ・不登校をうまない  
魅力ある学校づくりに向けた取組の推進

### 短時間で継続的に行う「人間関係づくりプログラム」の推進

#### 人間関係づくりプログラムとは

ペアやグループでの話し合いを通して、他者理解や自己理解を促し、自尊感情を高めるための構成的グループエンカウンターや人と関わる力を育むソーシャルスキルトレーニングを集中的にグループで行う活動



#### 現状

- 児童生徒の良好な人間関係を築く取組が不十分
- いじめの認知件数の増加、不登校出現率の増加
- ベテラン教員の大量退職と経験の少ない若手教員の増加
- 大分県版「人間関係づくりプログラム」(小・中・高校編)は策定されているものの、全教職員に普及されていない



#### 期待される効果

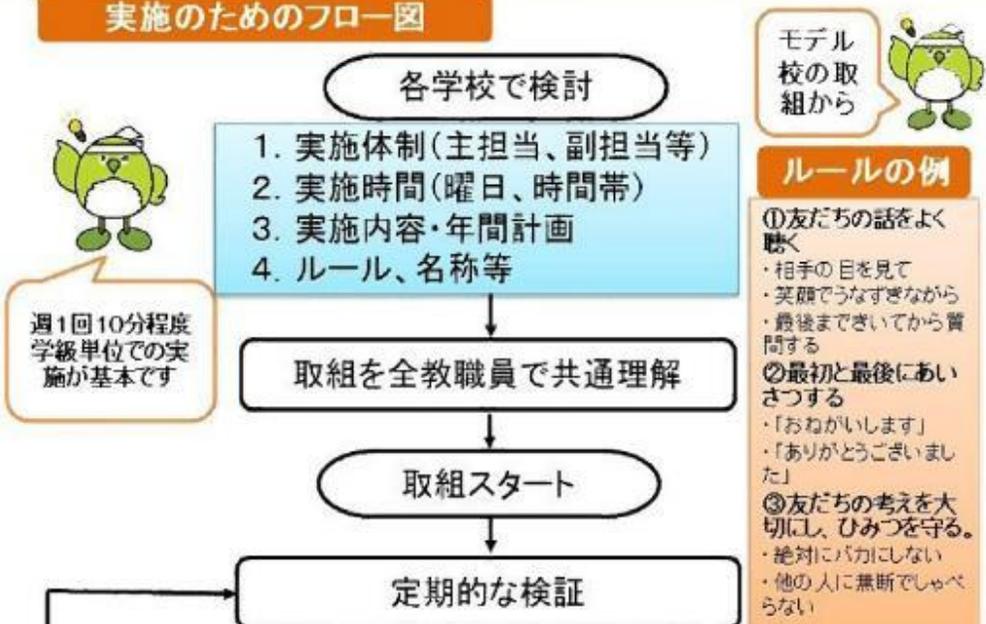
- ①魅力ある学級・学校づくりの促進
- ②いじめの認知力の向上や早期解決、新規の不登校出現数の減少
- ③教職員の学級経営力の向上

#### 具体的取組

- 短時間・継続的(10分間・週1回程度)に実施可能な「人間関係づくりプログラム」の推進
- 「人間関係づくりプログラム」実践ガイドを全公立学校へ配布
- 「人間関係づくりプログラム」研修会の実施

### 短時間で継続的に行う「人間関係づくりプログラム」の実施にあたり①

#### 実施のためのフロー図



### 短時間で継続的に行う人間関係づくりプログラムの活用

児童生徒の良好な人間関係を構築し、いじめ・不登校をうまない魅力ある学校づくりを推進するため、短時間で継続的に行う「人間関係づくりプログラム」を実施し、いじめや不登校の未然防止及び学級経営力の向上に資する。

- ・実施期間…原則として週1回10分程度（時間の幅はあってよい）
- ・実施形態…学級単位を基本とし、学年、学校全体での実施も考えられる
- ・構成的エンカウンターやソーシャルスキルトレーニング

